

スペインNGOで、太陽光発電を 用いた地域の自立支援の在り 方を学ぶ

～外務省・NGOスタディプログラム帰国報告～



特定非営利活動法人アルシュ(自立を支援する会)

2010/06/17

小西麻由

研修の概要

- ・ テーマ： 太陽光発電を用いた地域の自立支援の在り方を学ぶ

受入先機関名：

- ・ La Fundación Ecología y Desarrollo (以下、ECODES) の COOPERACIÓN (国際協力) 部
- ・ 有料講習： La Fundación SUPEREMOS

期間：2010年1月13日～2010年3月15日

研修の目標

支援国は太陽後発電や再生可能エネルギーの導入に関するプロジェクトを行う際、どのようにプロジェクトを立ち上げ、実行に移しているのかを学ぶ

ECODESがどのような理念のもとに、太陽光発電や再生可能エネルギーを用いたプロジェクトを実施しているのかを学ぶ

研修の目標

現地で導入された技術(太陽光発電や再生可能エネルギー)が、その後どのように地域の人びとによって自立的かつ持続的に活用され得るかを学ぶ

研修の目標

東海地域の他のNGOと情報を共有するとともに、太陽光発電を用いた支援事業に関する、国際協力NGO(特に事業規模の小さなNGO)向けの手引き書を作成する

研修の内容

- ・ スペイン(ECODES)

プロジェクトを企画する一連の業務に携わる

プロジェクト資料を読み込む

職員からの聞き取りを行う



研修の内容

- ・ ニカラグア (2月22日 ~ 3月5日)

有料講習 (SUPEREMOS)

「地域支援と再生可能エネルギー」(2月23日 ~ 26日)

プロジェクト関係者との打ち合わせ等に参加する (ECODES)



目標に対する成果

目標 ECODESがどのような理念のもとに、太陽光発電や再生可能エネルギーを用いたプロジェクトを実施しているのかを学ぶ

太陽光発電とは、

- ・電力化を達成するための道具ではない
- ・現地住民が自らの住む地域の環境問題を意識したり、さらには自らの抱える問題(環境問題や電気がないということもその一つである)の解決に向けて、彼らが変革主体となって知識や技術を獲得したりするための学習の機会として捉えられている

目標に対する成果

目標

現地で導入された技術(太陽光発電等)が、その後どのように地域の人びとによって自立的かつ持続的に活用され得るかを学ぶ

導入された技術は地域の人びとによって“消費”されてはいるものの、コミュニティの持続的な発展に資するような、地域住民による自立的かつ持続的な活用は見られなかった

目標に対する成果

目標

東海地域の他のNGOと情報を共有するとともに、太陽光発電を用いた支援事業に関する、国際協力NGO(特に事業規模の小さなNGO)向けの手引き書を作成する

- ・報告会の実施(2010/05/15)
- ・今年の夏に再度ニカラグアで調査を行う予定

貴重な機会を与えてくださり、
本当にありがとうございました

